

改定の趣旨

- 「宮崎県交通・物流ネットワーク戦略」は、「未来みやざき創造プラン長期ビジョン」に基づく「アクションプラン」に定められた交通及び物流に関する施策を効果的に展開していくために、具体的な取組を体系的に示すものとして、平成25年3月から策定しているものであり、今般、「長期ビジョン」（令和4年9月）及び「アクションプラン」（令和5年6月）が新たに策定されたことに伴い、本戦略についても改定を行うもの。
- 計画期間：令和6年度～令和9年度（4年間）

交通

物流

I 本県の交通・物流を取り巻く環境

- 人口減少・人手不足の進展
- 働き方改革・物流の2024年問題
- 経済・産業の広域化・グローバル化
- 大規模行事（2027年国民スポーツ大会等）の開催
- 技術革新がもたらす労働環境の変容
- 自然災害の激甚化・頻発化
- 交通・物流インフラ整備の着実な実施
- 脱炭素社会・SDGs（持続可能性）に向けた意識の高まり
- 新型コロナの影響による交流人口の減少 など

II 本県交通・物流の現状と課題

交通の現状と課題

バス	海上航路	利用者の減少、運転士不足、 路線の維持・充実 など
鉄道	航空	

物流の現状と課題

航空貨物	トラック貨物	インフラ整備の着実な推進、 物流の2024年問題（物流の停滞）など
鉄道貨物	海上貨物	

III 目指す目標と基本方針・IV 展開する主な取組

<目指す目標> 将来にわたって県民生活や県内産業の成長・発展を支える交通・物流ネットワークの構築

交通の基本方針と主な取組

1 持続可能な地域公共交通ネットワークの構築

- <施策1>誰もが利用しやすい環境の整備や魅力発信などによる需要の掘り起こし
 - ・県・市町村・交通事業者が一体となった利用促進策の検討・実施
 - ・駅の段差解消やノンステップバスの導入などのバリアフリー化の推進 など
- <施策2>関係者間の連携・共創や路線の見直しなどによる運行の最適化・効率化
 - ・各モードの結節強化（乗り継ぎの円滑化）に向けた検討会の開催
 - ・路線バスのA1デマンド化の推進 など
- <施策3>路線維持のための支援や運転士確保の推進などによる運行基盤の整備・充実
 - ・広域的なバスの運行費や大型二種免許の取得等に係る教習費用の補助 など



2 国内外との交流を活性化させる交通ネットワークの構築

- <施策4>交通の玄関口となるターミナルの機能充実
 - ・ターミナル管理者・行政・交通事業者等が連携した利便性向上の推進 など
- <施策5>国内拠点間の円滑な移動を支える広域交通ネットワークの維持・充実
 - ・東九州新幹線など高速鉄道網の整備促進、長距離フェリー航路の利用促進
 - ・国内航空における地方間路線の再開、LCC路線の増便・新規路線の開拓に向けた誘致活動や要望活動の実施 など
- <施策6>海外との交流を活性化させる国際交通ネットワークの構築
 - ・国際定期便の早期再開に向けたチャーター便を含む誘致活動やセールス活動の実施 など



物流の基本方針と主な取組

1 安定輸送を担う物流ネットワークの構築

- <施策1>効率的な物流網を支えるインフラの整備
 - ・高規格道路の整備促進やアクセス性の向上、船舶の大型化に対応した港湾の整備の推進 など
- <施策2>安定輸送の実現に向けた物流構造改革の推進
 - ・自動化・機械化等による物流DXの推進、船舶や鉄道へのモーダルシフトの推進 など
- <施策3>サプライチェーンの最適化による物流効率化の推進
 - ・貨物の集約や積み合わせ輸送など各産業ごとの集出荷体制の効率化の推進 など
- <施策4>荷主・消費者への理解促進
 - ・荷主・消費者の意識改革や行動変容を促すための啓発等の実施 など



共通の基本方針と主な取組

1 災害に強い交通・物流体系の確保

- <施策1>災害時においても機能する交通・物流網の構築
 - ・緊急輸送道路等の整備や重要港湾の耐震化の推進、陸海空が連携した移動・輸送手段の代替性の維持・確保 など

2 交通・物流分野の脱炭素化の推進

- <施策2>環境負荷の少ないグリーンな交通・物流の促進
 - ・エコ通勤割引制度の普及・啓発などによる公共交通の利用促進
 - ・EVバスの導入検討、モーダルシフトや積載率向上等による物流システムの効率化推進 など

